



国際警備保障株式会社

○本社所在地：茨城県水戸市見川町2131番地の950

○事業概要：サービス業

○常時使用する従業員：492名

（グループ全体・2025年10月時点）

○現在の売上高：23億円

（グループ全体・2025年5月期）

○法人番号：6050001046065

○Web：

<http://www.kokusaikeibi.com/>
<http://ssg-h.co.jp/profile.html>
<https://yunishikawakan.com/>
<https://nbeaf.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
加藤 潤一

茨城・栃木の暮らしと社会インフラを支える、地域密着型ホールディングスへ

国際ホールディングスは、茨城県初の警備業認定を受けた国際警備保障を原点に、栃木の警備会社承継や上下水道施設管理を通じ、地域インフラを支える土台を築いてきました。近年は旅館や畜産事業にも展開し、観光・食・暮らしへ広く関与。今後はグループ連携とDXを強化し、社員と共に成長し続ける地域密着型ホールディングスとして、100億企業の実現に挑戦します。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2033年に売上高100億円達成を目指す（詳細は次頁参照）



課題

- ・旅館の利用ニーズの変化に対応したリニューアル戦略の立案
- ・ペット同伴可能な旅館
- ・ホテル業態への参入に向けた、M&Aや事業承継を含む戦略的拡張の検討
- ・外食（焼肉店）およびペットフードへの商品展開体制の未構築
- ・警備業における未進出エリアのマーケティングと営業拡大の遅れ

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・旅館のリニューアル計画とDXによる予約運営システムの導入
- ・ペット同伴型旅館、ホテル業態の展開に向けたM&A、事業承継候補の探索と検討体制の構築
- ・焼肉店舗の企画およびテスト出店準備
- ・和牛を原料とした高付加価値ペットフードの開発と販売ルート（EC等）の構築
- ・グループ横断での商品・人材・販路を共有する統括機能の強化
- ・警備業における未開拓エリアでの営業拠点整備と人材採用

実施体制

- ・警備・上下水道事業は既存会社の責任者が中心となり、営業展開と自治体連携を推進。
- ・旅館事業は現場責任者と経営企画が連携し、改修と運営改善を実施。
- ・畜産・食品事業はエヌBeaFを軸に、ブランド戦略と商品開発体制を構築。
- ・グループ横断では人材育成、経営管理、DXを担う機能部門を再編し、業務の標準化とKPI可視化を推進。

売上高100億円実現の目標と課題

- 事業1（インフラ・警備系）：地域基盤の拡充と安定成長
 - ・当社では茨城県の県西エリア(古賀)が未開拓エリアであり課題となっていたが、現在、県西エリア（古河・筑西など）の警備会社より警備業の引継を実施しており、今後は安定した収益基盤を確保が見込める。
 - ・今後は栃木県内での足場をさらに固めつつ、北関東 → 関東 → 東日本へと段階的に営業エリアを拡大。大きな増収ではなく、毎年10%の安定成長を軸に、持続可能かつ堅実な売上成長を計画している。
 - ・紙や属人業務が残る警備・施設管理領域では、ケーシーエスデータワークスとの連携により帳票電子化・データ活用体制を整備。業務の効率化を高める。
- 事業2（旅館・畜産・ペットフード・飲食）：地域資源の融合と高付加価値展開
 - ・1～2年以内に鬼怒川地区での新たな旅館承継を目指し、ペット同伴可能な宿泊施設としての差別化を図る。これを起点に、エヌBeaFで取り扱う和牛を活かした高品質な国産ペットフードの開発にも着手。既存の旅館「湯西川館」も改装を予定しており、インバウンドや富裕層ニーズの取り込みによる増収を見込む。
 - ・さらに、焼肉業態の出店（鬼怒川・宇都宮・水戸）を予定しており、旅館・飲食・畜産・ペットフードの4領域を連携させた“循環型モデル”を形成。これにより、フードロス削減や地域資源の活用、SDGsへの対応を実現していく。
 - ・また、常陸牛や栃木・茨城の地産地消食材も積極的に取り入れ、ブランド価値と食文化の発信を強化。日光エリアで培う観光運営ノウハウを将来的に茨城県内へ展開し、地域としての魅力度向上に資する観光資源創出にも取り組む。
 - ・ケーシーエスデータワークスの情報処理機能を活かし、顧客調査の集計・分析支援を実施。マーケティングや事業改善に資する定量的データ整備を進めていく。

